

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071201119		
法人名	社会福祉法人高陽会		
事業所名	グループホーム風の里	ユニット名:	東の家
所在地	和歌山県紀の川市粉河951-1		
自己評価作成日	平成23年9月29日	評価結果市町村受理日	平成23年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071201119&SCD=320&PCD=30
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成23年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

風の里は幹線道路に面した立地にあり、近隣には、学校、消防署、神社、スーパー等生活の拠点がたくさんあります。ホームは地域の方との交流の場を作るように努め、地域の方々の協力を頂きながら様々な地域の催しへ参加しています。ホームを拠点に利用者の方と一緒に出かけをモットーに地域生活との「緑」を繋げる生活を大切にしています。「食生活」は買い物から調理まで職員、利用者と一緒に日々行っています。安心と安全に配慮しながら1人1人の利用者の方の状態、状況に応じて日常生活での役割を持てるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道に面した総合福祉センターの敷地内の奥の一角にグループホームがあり、和の「西の家」と洋の「東の家」の2ユニットがある。個人を尊重し、自分らしく生き活きとゆっくり生活できるサービスの提供に努めている。特にひとり一人の思いを大切に、日頃の会話の中に出てきたなじみの場所へ出かける等の支援も行っている。又、食事には季節が感じられる食材を献立に取り入れ、買い物から準備、調理、片付けなどを職員と一緒にできるような声をかけ、個人の力を出せるように支援している。地域との交流は総合福祉センター全体で取り組まれ、夏祭りなどの行事には、地域住民にも参加を呼びかけ交流を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人の行き方を尊重した生活を支援することを理念とし、それを実施できるように事務所に掲げています。朝礼時とミーティング時に共有し日々の実践に向け取り組んでいます。	具体的な文章で表したものと簡潔に表したものの、2種類の事業所理念をつくり事務所に掲げている。朝礼時に復唱すると共に、毎日のミーティングで日常のケアの実践に照らし合わせて確認し、職員間で共有している。	理念は玄関や居間などの共有スペースに掲げ、入居者本位の暮らしの場としての事業所の在り方について、入居者や家族と共通の認識が持てることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会の勉強会、民生委員の1日体験等、利用者と地元の人々との交流、地域の交流(文化祭など)に参加して交流を深めています。	総合福祉センターを拠点に地域の老人会等に場を提供している。地域とのつながりを大切にし文化祭にも参加している。保育園児童の来訪もあり、デイサービスと共に遊戯を観賞したり足湯を楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサービスの開催や、民生委員、老人会の勉強会、ボランティア等の受け入れを積極的に参加しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、事業報告、意見交換、情報収集を行い、ホーム運営に生かしています。	運営推進会議は固定のメンバーで2ヶ月に1回定期的に行われている。会議で出された意見には迅速に対応し、転倒予防の環境を整えるなど、運営に反映されている。	話し合いのテーマを用意し、メンバー以外の家族や地域住民にも参加を呼びかけるなど、形式にとらわれずに多くの意見を集める工夫をして、更に多面的に活用できる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡等で済ませるのではなく、面談し相談・報告・連絡するようにしています。	グループホームの実情をわかってもらうため、市の担当者と直接会って相談報告するようにしている。日頃からの関わりの中でコミュニケーションが築かれており、共に発展、向上出来るように連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施や日々のミーティングの中で学び身体拘束をしないケアの実践を行っています。	内部研修で意思統一を図り、身体拘束しないケアを実践している。言葉の拘束にも気を付け行動を制限しないで見守っている。日中は玄関の鍵を掛けないことなどで家族が安全に対して不安を抱かないよう、入居時に説明をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の実施や日々のミーティングの中で学び虐待をしないケアの実践を行っています。		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：東の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度については外部の研修で学ぶ機会を設け、利用者や家族によって必要な人がいれば制度の説明を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は、利用者や家族等、理解・納得して頂く為に十分な説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族とのコミュニケーションの中で苦情・要望などがあった場合、報告書やカルテに記入しミーティングなどで話し合い運営に反映させています。	年1回の家族アンケートを無記名にして実施し、家族の来訪時には意見や要望を聞くようにしているが、苦情・要望などの意見が出されることは殆ど無い。	うちとけた雰囲気の中で職員とんでも気軽に話す中でいろいろな声が聞かれるように、家族の来訪時には共有スペースで一緒に過ごす時間を持つなどの工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や個人面接を行い、個人の意見を出してもらっています。また、様々な企画の立案は職員に任せ運営者、管理者は安全面の確認を行っています。	毎日のミーティングや年2回の個人面談の中で意見が出されている。職員の考えを取り入れていけるように、行事等の企画の立案は職員に任せるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な職員との面接や、自己評価の実施・目標設定を把握する事で、就業環境の整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の基礎研修、内部研修(年6回)、外部研修は研修内容や経験に応じて積極的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部との研修や研修生の受け入れ、他事業所との勉強会に参加しています。		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：東の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人より入居時の聞き取りの中で、アセスメンタ・カンファレンスを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等により入居時の聞き取りの中で、アセスメンタ・カンファレンスを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等により入居時の聞き取りの中で、その時に必要としているサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重した生活を築く援助を行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、状況に応じた受診、外出、外泊等で、家族と職員が一緒に支えて行く認識を持ってもらっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等の訪問を勧めたり、会話に出てくる場所にでかけるようにしています。	なじみの美容室の利用や入居前の地蔵参りの日課を続けたり、懐かしい場所にでかける等、入居前の人や場所との関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を理解したうえで外出の組み合わせ、食事の時の配置などを決めて精神の安定が図れるように仲間作りや活動の場面を支援しています。		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：東の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時等の時は定期的に訪問や家族との連絡を取っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回時のアセスメントやミーティングで問題点や希望を把握し、その人らしい生活ができるように検討している。	日頃の会話の中で出た言葉や行動で思いを知るように努め、意向に添うように心がけている。その人らしさを把握するためにアセスメントツールとしてセンター方式の私の姿シートを使い、各担当の職員が記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや、利用者・家族・他職種とのコミュニケーションの中でその人の生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントやミーティング・カンファレンス等、把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時のアセスメント、家族や必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映できるようにしています。	家族の意見を聞いて職員間で検討し、支援項目別の様式で作成しているが、課題の重要度合いやアセスメントで把握した内容との関連性がみえにくい面がある。計画書は新たな計画を再検討する際に見直している。	その人が安心して生き生きと生活できるためにはどのような援助が必要か、根拠に基づいた目標に向けて、その人のためにできる具体的な計画の作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ記入した物をミーティングで情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況とニーズを把握し、希望に添えられるような柔軟な対応をしています。		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：東の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域包括との連携を取るようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ受診援助しています。	本人家族の希望を尊重しているが、入居後はほとんど協力医希望となっている。月1回の定期受診時は職員が同行し、受診後は家族に報告をしている。訪問看護による健康管理も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師、医療連携先の看護師に状態を相談し、アドバイス等を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に訪問し担当医と情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を聞き、他職種との連携を図り、事業所としての援助方法を話し合い確認しています。	入居時に事業所の方針として重度化した場合は施設へ移ることを説明している。現在は主治医の判断で決めているが、今後利用者や家族が要望した場合の看取りを含めた対応をどのようにしていくか検討する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や緊急時対応マニュアルによって徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害、防災マニュアルを基に職員間で周知し、消防訓練を実施しています。また、行政や消防署等に協力をお願いしています。	防災訓練は年2回、グループホーム入居者も一緒に、総合福祉センター全体で行われており、近くの中学校と共に災害時の地域の避難場所にもなっている。食料、日用品などの備蓄もある。	

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：東の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修や個人情報保護の内部研修を行い、実践しています。	外部講師による接遇の研修を実施して実践に活かしている。入居者は苗字で呼び失礼のないように配慮している。プライドを損ねるような対応がないように職員間でも注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り選択できるような方法を心がけ援助しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースではなく利用者の能力に応じた対応をし利用者の希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を尊重し、衣服の選択や化粧、行きつけの美容室を利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニュー、食材の買い物、下ごしらえ、盛り付け、後片付けと様々な場面で利用者の能力に応じた支援をしています。	買い物や食事の準備や片付け等、できる部分は行えるよう支援している。食事を共にする職員は1ユニットに1名のみで、その他の職員は持参した弁当等を休憩時間に食べている。	職員と入居者が一緒に同じ食事を楽しめる環境の検討が望まれる。食事を通じた関わりの中で意欲を引き出し、一人ひとりの持てる力が発揮できるような支援を期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事摂取量、水分摂取量、体重のチェックを行い、日々の状態観察を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、援助を行っています。		

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：東の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを活用し、排泄パターンを把握し、トイレの声掛け、援助を行っています。またミーティングを行い、利用者の能力に応じた援助を行っています。	排泄の自立支援に取り組み、リハビリパンツの使用はあるがオムツは使用していない。入居前にリハビリパンツを使用していた人が普通のパンツに変更できた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを活用し、個別に把握していません。便秘がちな利用者には、食物繊維の多い食事や乳製品等の提供を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間の希望を聞き、自由に入浴できるように支援しています。	日中の時間帯で一人ひとりの希望や状況によって時間や回数が異なり、毎日入浴する人も隔日の人もいる。入浴を嫌がる人には声掛けを工夫し、納得して入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境の整備を行ったり、利用者の方の生活リズムを整えるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を個別にカルテに管理し、副作用や作用について理解し病状の変化の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の目標に沿った援助を行っています。日々の食材の買い物、散歩、嗜好品の買い物は頻繁に行っています。また外食などの企画は月に1回行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた企画を立案し、家族にも連絡を取りできる限り参加してもらうようにしています。また自発的に外出したいと希望のない人についてはこちらから促しています。	歩いて行けるスーパーが2箇所あり、よく利用している。外食の要望が多く月に一度は出かけている。ユニットごとに季節の行事を企画し、高野山等へ出かけている。行事は家族にも案内したが参加がなく、家族も一緒に出かけられる企画を計画している。	

【事業所名】グループホーム風の里 ユニット名：東の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて管理できる方にはお金を所持して頂き、外食や買い物時に使用してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話、固定電話の使用や暑中見舞い等の手紙を書いて楽しんでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に応じた照明の点灯パターンに配慮しています。また季節感を感じられる生け花や掲示物をリビングや玄関ホールに用意しています。	すっきりと片付けられ全体的に整理整頓されている。リビングの明るさも程よく、畳のスペースや置かれたソファはくつろげる雰囲気、利用者同士が和やかに話している光景が見られる。小物や生け花などには季節感があり、坪庭も心を和ませる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の方には居室、ダイニング、リビング、玄関ホール、中庭のテラス等で気の会う方、家族との面談、または1人で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明で、今までの使い慣れた馴染みのある家具類等を持って来て頂けるよう説明しています。	「西の家」の居室は全室和室、「東の家」はベッドが備わっている。十分な収納が用意されており家具類の持ち込みは少ないが、写真や小物などでその人らしい部屋になるよう工夫し、明るく整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には利用者の方の目印になるものを表札代わりに置いています。		